

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176501870		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家 グループホーム 南与野		
所在地	埼玉県中央区鈴谷1-24-1		
自己評価作成日	令和 2 年 11 月 17 日	評価結果市町村受理日	令和3年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 2 年 12 月 18 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在コロナの影響で思うような活動が出来ず、制限された毎日が続いている中、入居者様をコロナから守りながら今までの様な活動を行って行けるように模索しています。
 まずはコロナを施設に持ち込まない為、スタッフの健康管理・共有スペースの消毒、家族様との面会ルール作りを行っています。その他、制限がある中でも新しい事にチャレンジし、地域とのかかわり・入居者様の地域での活動の場を広げる為に取り組んでいます。例えば、入居者様が以前から楽しみにしている保育園の園児と交流を復活させるべく現在取り組んでいる事は屋外でのハロウィンイベントやパソコンのリモートZOOMを使用しての誕生日会の参加、当施設の畑の貸し出しを行い園児の作ったお芋を頂きお芋パーティーの予定があります。自治会に加入し敬老の日のお祝いを頂いたり、ご近所様に臨時で駐車場をお貸しし、そのお礼に家庭菜園の野菜のおすそ分けを頂いたりとの交流を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設17年経過し、地域との関係は密接である。例年なら、夏祭りに子どもみこしがきたり、散歩中の挨拶や会話は日常である。隣接の保育園との交流は多く、保育園の誕生会に招待されたり、ハロウィンでは、園児たちの訪問がある。敷地内の畑を貸し出し、さつま芋の栽培をしている。園児たちと一緒に収穫を楽しみ、お芋パーティーを開いた。職員間の風通しが良く、様々な意見が出されている。コロナ禍であるが、その中でできることを考えている。保育園との交流をリモートでしたり、家族との面会を外のベンチでしたり、例年の味覚狩りが難しいので、室内にぶどう棚を作り、そこでぶどう狩りをする等している。どれも好評あった。また、地域に元気を届けようと外壁にクリスマスイルミネーションの飾りつけをした。種々の介護記録をデータ化し生活パターンを把握し適切な支援ができるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域の人々とのふれあいを大切にします』という理念に基づき、コロナ過でのご近所様や保育園との新しい交流方法を模索し実践しています。	春の管理者変更に伴い理念の見直しをした。思いをくみ取り利用者の笑顔を引き出すことを目標に掲げ、今できることを考えている。利用者が楽しみにしている誕生月の外食をお好きな弁当等を外のベンチで食べたりと工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新しい交流の中の一つとして保育園との『パソコンのリモートZOOMを使っての誕生会の参加』を行う予定です。	自治会に加入し地域行事に参加している。例年の夏祭りでは、子供神輿が事業所に訪問していた。隣接の保育園との交流行事も毎月のようにあったが、現在はリモートで画面越しの交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナにより運営推進会議は開催できていないので、開催できるように考えたい。隣の駐車場の工事の際1Wほど近隣の方々に駐車スペースを貸し出した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナにより運営推進会議は開催できていない。今後ZOOMを使用して開催する予定である。	これまでは、家族、行政職員、地域包括職員、自治会長、隣接保育園の参加で開催されていた。現在は、書面会議で報告事項を中心に実施されている。今後は、各関係者と双方向のリモート会議に移行する予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護時給者担当のSWの定期的な訪問が出来ない中、電話や書類にての情報交換。管理者による包括支援センターへの営業を兼ねての訪問を行い交流を行っている。	行政担当者や包括職員とは、会議等で顔見知りの関係である。行政とは、研修に参加したりマスクや消毒液の配布、災害情報等と幅広く繋がりがあがる。地域包括支援センターとは、地域情報の交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度本社より不適切ケアについての注意喚起や不適切ケア・身体拘束ゼロに向けての取り組みを行っています。	研修は定期的に関き、身体拘束廃止委員会では3ヶ月毎に開催して、振り返りを行っている。新入職員には、個別研修をし、レポート課題もある。法人本部からの通達等で言葉かけや接遇について事例検討をしている。不在者には、書面を渡し自己学習してもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・不適切ケア・身体拘束チェックシートを定期的実施しユニット会議や研修等で声掛けや介助方法の研修を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で権利擁護については学んでいるが、定着し活用できているかはぎもんである。今後の課題であると認識している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は時間をかけ営業担当者やホーム長が対応しています。食材費値上げの際は電話にて説明後書面にて資料と同意書を頂いており、質問等は別途受け回答文にて説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	例年は家族様アンケートを行っているがコロナの為実施できていない。だが、当ホームの家族様は直接意見を伝えていただけの方が多く頂いた意見を運営に反映させていたいています。	面会時や電話等の普段の会話から意見を聞いている。本部直通の相談ダイヤルがある。玄関の意見箱を大きく目立つように変更した。今年の夏祭りは家族参加ができないため様子を知りたいとの要望に、動画をDVDにして送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	例年はスタッフアンケートを行っているが、コロナの為実施できていない。だが、3か月に1度個別に面談を行っている。個々の意見等を聞き運営に反映させている。	3か月毎に面談をし、意見の収集や目標の設定等おこなわれている。会議や申送り等で業務の見直しは常に検討されている。備品の購入にも柔軟に対応し、シャワーチェアや冷凍庫、屋外用ベンチ等購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの導入や個々の面談で希望や目標を聞き技術の向上や給料UPの実現の為の相談や支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格支援制度を使いスキルUPしてもらうと共に、技術不足による不安に対応するべく随時OJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームへの見学や他施設への見学を通し、良いところは見習いサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や家族様より生活歴を聞きスタッフ間で共有を図りコミュニケーションを行う事で信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に計画作成担当者による家族様へのケアに対する希望・想い・要望を聞きスタッフで共有しし関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の希望や家族様から伺った内容・アセスメントをもとに対応しサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが作業を行っているお手伝いいただき感謝しています。持ちつ持たれつの暖かい関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフとの関係がより良いものであっても家族様との交流に勝るものは無く、コロナ過の中でも面会を行え得よう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過の中で外出や外泊、家族様以外の面会にご遠慮いただいているが、携帯電話でお話する方や固定電話でスタッフが電話をかけお話する等の交流は行えるように支援している。	友人の来訪や電話、郵便等がある。携帯電話で家族や友人と連絡を取っている。毎月の訪問美容師とも馴染みで髪染めや顔そり等行っている。趣味の編み物や続けたり好きなコーヒーを飲み続けたりする方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様1人1人の居場所を作れるように職員が支援を行うと共に、入居者様同士がなじみの関係を気付けるように橋渡しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移動された方の家族様より近況報告等あった際は伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から入居者様の思いや希望を聞き出したり、家族様よりの情報も頂きケアの参考にしている。	日常会話から思い等を把握し共有を図っている。今年度、改めて生活歴シートの見直しを図った。職員全員で気づきを加筆し共有を図っている。表現の難しい方にも、同じように話しかけ表情や小さな動きから思いを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴を家族様より伺ったり、テレビの話題・会話の中より把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴の中から推測される作業をスタッフと一緒にに行い出来る作業の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者・居室担当者・フロアスタッフによりモニタリング・カンファレンスを行ったり、家族様に現状に即したケアプランを作成している。	本人・家族の要望を確認し、3ヶ月毎に見直している。状態変化時は随時見直している。居室担当者を中心にモニタリングをし、看護師、理学療法士等からも書面で意見を聞いている。利用者・家族に説明し同意を得ている。	職員間の風通しはよく様々なことを話し合っている。それらの情報を共有し、利用者の希望すること、やってみようことを計画に組込んでいくことを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等を記録すると共に電子記録でのデータを把握しケアプランの見直しに利用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会話の中から希望されるニーズを聞き取り対応しています。すぐに対応できないときは家族様に相談し、実現できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過の為地域の人々との交流は難しかったが、保育園の子どもたちとの交流を再開した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診により対応しているが、今までののかかりつけ医の往診や受診も可能であり家族様協力のもと継続している。	かかりつけ医の継続、提携医の選択ができる。提携医は月2回の訪問、看護師の訪問は毎週ある。健康チェックや職員へ褥瘡処置のアドバイスをしている。理学療法士が毎月訪問し立位訓練、歩行訓練等実施したり、職員への助言もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	通常は週1日往診にて診てもらっている日々の変化等相談している。夜間や緊急時にも対応してくれ24時間相談可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院の連絡があればすぐに実調に行き病院側と連携を取りながら環境整備し受け入れの体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医より家族様やスタッフに説明を行ってもらい、本人や家族様の希望をふまえたうえで対応している。看取りの研修を行いスタッフ側の受け入れ態勢も整えている。	契約時重要事項説明書、指針に基づき事業所として出来ること、できないことを説明している。重度化時、医師の変更を含め家族の意向を確認している。意向の変化にも柔軟に対応している。定期的に見取り研修もしており、要望に対応する準備をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル・緊急ファイルを用意しスタッフ全員対応できるように訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ハザードマップを活用し、研修や訓練をおこなうでとっさの時の対応が出来るようにしている。消防署と相談しより実践に近い避難方法で訓練を行っている。	避難訓練は、年2回うち1回は消防署立会いの下でおこなわれている。通報、消火器訓練をし、助言を受けている。水害に対しては、職員に心構えを配布したり、ハザードマップを確認し避難場所である中学校まで実際に歩いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフに個人差はあるがおおむね出来ている。 不適切な発言が見られるスタッフには上長による直接指導を行っている。研修を通して研修も行っている。	個人情報、鍵対書架に格納している。研修は定期的実施している。声掛けには、職員同士でも注意するようにしている。不適切発言の多い職員には、管理者が直接指導をおこない、就業前に不適切発言をしないとの宣言をしてもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の場を増やし、自己決定が出来る入居者様には判断して頂き、難しい入居者には声掛けにて決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大きな流れはスタッフが誘導しているが、その中で入居者様のペースに合わせたケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方はスタッフと相談しながらご本人の趣味、こだわりをは配慮しながら決定している。理美容によるカットや毛染めも希望により行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご自宅で生活されていた時に健康の一環として召し上がっていたものを家族様やスタッフの協力を得て計測している。	片づけ等手伝う方もいる。これまでは、誕生日にお好みのお店に外食に出かけていた。現在は、テイクアウト等に対応している。個別にふりかけや佃煮等を喫食している人もいる。おやつ作りやお茶の飲み比べ等も行い喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当社の進める”自立支援”の一環として栄養のバランス・水分量を提供している。血液検査でアルブミン数値が低い方は栄養補助飲料や補助食を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月4回訪問歯科との連携により口腔ケアに対するアドバイスをもらい1人1人に合わせた清潔維持を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄を行うよう取り組んでおり、定時のトイレ誘導やポータブルトイレを使用しご自身で排泄を行えるようにしている。	水分をきちんと摂取し、かつ排泄記録をデータ化し声掛け時間を適切に行い、排泄の自立を目指している。重度の人でも可能な限りトイレで排泄してもらうため二人介助で対応している。夜間は、ポータブルトイレやオムツ対応している人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	”自立支援”の取り組みにて水分を多めに摂取して頂く事で排便を促しているが頑固な便秘には往診医により薬を処方して排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の気分が向いたときに入浴できるようにAM,PM声掛けや、同性介助、入浴剤を入れ気分転換しながら入浴を行っている。	週2回に入浴であるが増回も可能である。また、時間帯も柔軟に対応している。対応の難しい人には清拭、ドライシャンプーを使用している。ゆず湯や菖蒲湯はもちろん、みかん湯や月替わりで入浴剤を変えるなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早寝、遅寝、昼寝、電気の付け、消しやフロアのソファで休む方等1人1人の習慣に合わせて休めるよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の研修を行うと共に、服薬時スタッフ2名でのwチェック、服薬後のチェックを行い事故の無いように取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭きや、洗濯干し、たたみ、メニュー書き、新聞折、回覧運び他、趣味である読書、編み物、広報誌読み等行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過の為、駐車場までの外出としている。	いつもなら、散歩に出かけているが、敷地が広いこともあり庭が散歩コースとなっている。花壇や畑、ベンチがあり、そこから、隣の保育園児の様子が見られ、楽しみの一つとなっている。季節には、味覚狩りに出かけていたが、今回は、ぶどう棚を作成し、利用者にぶどう狩り気分を味わってもらった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ過の為、移動販売や買い物は行っていない。代用策を現在スタッフで考え中。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で連絡を取ったり、希望に応じてスタッフを介し固定電話から連絡を取ったり、ZOOMにて面会を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるような空間作りを入居者様と一緒に飾りつけを行っている。趣味で作成した折り紙作品完成させ掲示している。	フロアでは、体操や制作、洗濯物たたみ等の日常が送られている。従前より温度・湿度には気をつけていたが、今回加湿器を増設し管理を徹底している。掃除は、毎日おこなわれ、モップ掛け等手伝う人もいる。場面場面によりテレビや音楽を変えリラックスできるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにおいても各席は決まっており、お1人お1人のパーソナルスペースは確保している。ご自身の荷物等置き居場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の経緯に合わせ家族様と居室作りを行っている。	エアコン・照明・クローゼットは備品である。ソファやテーブルを持ち込んだり、家族写真や自筆の絵を飾り個人の空間を作っている。午後のひと時、テレビや編み物するなど思い思いに過ごしている。清掃は、毎日おこなわれ手伝う人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具を使い安全に行動が出来、ADL維持だけでなく、スタッフ一部分の手伝いでIADLの維持できるように生活して頂いている。		